

序に寄生する事が新たに確認された。同様に、ツヤヒメがヤシャブシの、モリモトがケヤマハンノキのともに雄花序を寄主とする事も新たに確認され、成虫の出現時期が早いキマダラが主に雌花序を利用し、遅れて出現するツヤヒメやモリモトは雄花序を利用することによって寄主の競合を回避している可能性が示唆された。

末筆ながら、ハンノキの雌雄花序を送っていたいただいた香川県の藤本博文氏、九州での調査に同行していただいた大分県の三宅武氏とハンノキ属植物の各部呼称について教示いただいた埼玉県の門田裕一氏にお礼申し上げる。

#### 引用文献

- 藤本博文, 2001. 熊本県阿蘇山で採集した、ヤシャブシを利用するシギゾウムシ2種の記録. 甲虫ニュース, (134): 25-26.  
 野津 裕, 1986. クリシギゾウムシなどの寄主植物. 月刊むし, (188): 37-38.  
 野津 裕, 2010. 東京都八丈島のシギゾウムシ. 神奈川虫報, (172): 13-14.  
 渡 弘, 1990. ヨーロッパにしか記録のなかったシギゾウムシを横浜市などで採集. 月刊むし, (238): 14-15.

(2016年10月17日受領, 2016年12月21日受理)

#### 【短報】茨城県未記録のアリノスコブエンマムシ

アリノスコブエンマムシ *Eucurtiopsis ohtanii* (K. Sawada) は大分県祖母山で得られた標本をホロタイプ、三重県産の標本をパラタイプとして記載された (K. Sawada, 1994). 本種はアズマオオズアリ *Pheidole fervida* Fr. Smith, 1874 の樹皮下コロニーより発見され、奇妙な体型は兵アリの頭部に似ていると言われている (大原, 1996).

本種は、これまで、本州、四国、九州の各地から採集されているが、アリの巣から採集されることと、体長が2mmに満たない小型種であるため、記録の少ない甲虫である。今回、茨城県北茨城市小川学術参考林で2002年にマレーズトラップで採集された昆虫を整理中に本種を見出した。念のため、写真を撮り、その画像を大原昌宏博士に送って、種の同定と茨城県未記録であることをと確認していただいた。

標本の採集データは下記の通りである。

1 ex., 茨城県北茨城市小川学術参考林, 3~18.VII.2002, マレーズトラップ, 後藤秀章採集。(図1) 採集地点の小川学術参考林林班“1い1”は伐開後

128年目(2002年時点)の広葉樹林である。

本種の同定ならびに情報を提供された大原昌宏博士に厚くお礼を申し上げます。

なお、本研究は環境研究総合推進費1-1401によって行われた。

#### 引用文献

- 大原昌宏, 1996. 日本産エンマムシ上科概説 II - ホソエンマムシ亜科, コブエンマムシ亜科, セスジエンマムシ亜科, アナアキエンマムシ亜科 - 甲虫ニュース, (114): 1-5.  
 Sawada, K., 1994. New myrmecophilous Coleoptera in Nepal and Japan (Histeridae and Staphilinidae). Contr. Biol. Lab. Kyoto Univ., 28: 357-365.

(横原 寛 いすみ市日在 2033-5)

(後藤忠男 森林総合研究所)

(後藤秀章 森林総合研究所九州支所)

(岡部貴美子 森林総合研究所)

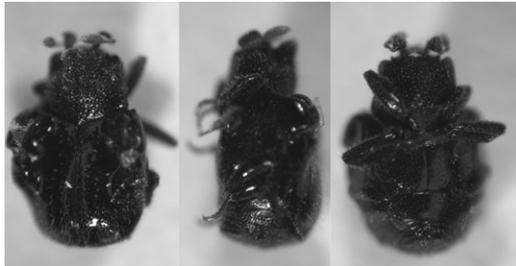


図1. 茨城県産アリノスコブエンマムシ, 1.9 mm. 左から背面, 側面, 腹面。